

vol. 114

千葉市美術館ニュース「C'n」(シーン) 114号

## 千葉市美術館 Chiba City Museum of Art ※ccma\_ip ②ccma\_ip

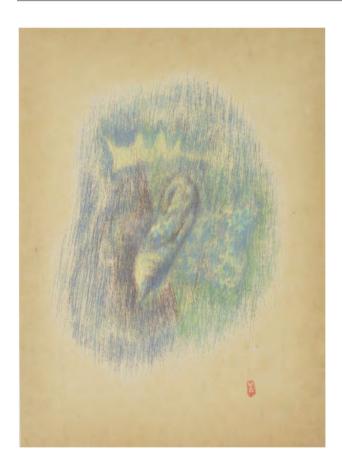
[編集・発行] 千葉市美術館 〒 260-0013 千葉市中央区中央 3-10-8 TEL. 043-221-2311 FAX. 043-221-2316 Chiba City Museum of Art 3-10-8 Chuo, Chuo-ku, Chiba 260-0013, Japan https://www.ccma-net.jp/ [発行日] 2024 年 11 月 1 日 [印刷] 株式会社 エイチケイ グラフィックス



ザ・キャビンカンパニー《『ゆうやけにとけていく』原画》 2023年 作家蔵

## 館長のつれづれコレクション案内

## ガリ版の線を活かした詩情ある一点



若山八十氏 「題名不詳(貝) (木版画集『一木集』IVより)」

1948年 孔版多色摺·紙 35.4×27.6cm

重ねられた黒、紫、淡青色などの縦線の粗密や濃淡の中からいくつかのかたちがあらわれてきています。右側のかたちはさなぎや幼虫、あるいは貝のようでもあり、その後ろに左側から交差するのは布のようでもあります。よく見ると、どの線も細かい点の連なりのようで、そのために、全体が幻想性をまとっています。

点の連なりのような線の性質は、この作品が謄写版、いわゆるガリ版で摺られていることに由来します。ガリ版は、蝋を塗ったパラフィン紙をヤスリの上に載せて、鉄筆で文字などを書き、その部分に孔を開けて孔版を作り、版の下に紙などを置いて版の上からローラーなどでインクを載せる印刷方法です。ヤスリには細かい溝が切られているため、鉄筆に同じ筆圧をかけて線を引いても、ヤスリの山と溝の部分でかかる圧力が異なり、山の部分により大きな孔ができます。そのために点の連なりのような特有の線があらわれます。

今日では誰もが電子機器で文字を入力し、様々なフォント、文字の大きさ、色で何枚でも印刷ができますが、日本では1977年に日本語ワードプロセッサーが登場し、普及するまで、ガリ版と呼ばれる簡易印刷技術が事務書類の作成に用いられていました。1960年代から学校に通った私も、学級通信などの配布物をつくるために先生たちがガリ版を切り、黒インクをローラーにつけてわら半紙に刷っているのを日常的に目にしていましたし、小学校高学年からは、生徒たちのグループでガリ版の配布物をつくる機会もありました。ガリ版はモノクロで文書をつくるものと思っていましたので、この作品があのガリ版でつくられていると知った時は、大きな驚きがありました。

作者、若山八十氏(1903-1983)は、1903(明治36)年、北海道江差町に5人兄弟の末っ子として生まれ、中央大学法学部在学中に謄写版印刷の仕事に関わり、卒業後も従事しています。1942年に日本版画協会第11回展に謄写版による「想ひ」「庭」で初入選し、これが、謄写版による版画が美術の世界で初めて認められた機会であったとされています。1939年からは、恩地孝四郎を慕って集まった青年たちによる孔版画研究会に参加し、その仲間たちと1944年に1冊、戦後に5冊、『一木集』という版画集を発行していますが、若山はそのすべてに謄写版の版画を寄せており、この作品はその第4冊目の中の1点です。初期の若山の作品は、詩や文学との関わりの強い抒情的な作品が多いのですが、戦後には抽象的なかたちを組み合わせ、時に社会批判を含んだ独自の作風を示すようになっており、この作品には抒情的な作風から抽象へと変わっていく兆しが見えるように思います。

若山は自らの制作方法について、「大衆が事務所で使っている例のヤスリの上に蝋原紙をのせてガリガリやるあれですから、一向技術とか何とか面倒なものはない版式で、最近は大衆に美術をというスローガンでやっているわけです。」(『日本美術(月刊)』1969年8月)と述べており、絵本の制作をしたほか、『新職業としての孔版・軽印刷技術全書』(鶴書房 1955年)などを著して、優れた謄写版印刷技術を一般に普及することにも努めました。日常的に身近にある、必ずしも美術作品のための道具とされていないものからも魅力ある作品が生まれることを、この1点は教えてくれます。[館長 山梨絵美子]



## ザ・キャビンカンパニー大絵本美術展〈童堂賛歌〉 アーティストインタビュー

阿部健太朗さんと吉岡紗希さんによる二人組のアーティスト「ザ・キャビンカンパニー」。大分県由布市の 廃校をアトリエにし、絵本や絵画、立体作品、イラストレーションなど、日々さまざまな作品を生み出してい ます。近年では、絵本原画展へのノミネートや絵本賞の受賞も重ね、勢いづくお二人。公立美術館でのは じめての大規模個展に込めた思いをお聞きしました。



【図1】ザ・キャビンカンパニー《大ウツボ戦闘記》 2010年 作家蔵

## ――本展の冒頭では、手製本の『ボンボとヤ ージュ』と《大ウツボ戦闘記》【図1】が登場し ます。これらを手がけた当時のことをお聞か せいただけますか。

吉岡:《大ウツボ戦闘記》は、はじめて共作で 描いた作品です。なにを描くか考えたとき、「大 分で描いている」ということもあり、すぐそばに ある海を選びました。暗中模索のなか、絵画と はなにか、芸術とはなにかを考えて、遭難して いるような気分でした。

阿部:気がつくと、船や旅ばかりをモチーフに 描いていましたね。二人とも大分大学に通って いたのですが、まわりはどんどん就職していき、 もちろん作家になる人もおらず……。

吉岡: 絶海の孤島みたいな状態で(笑)。

阿部:二人だから共有できることもあったので すが、そういったある種の孤独感のなかで、溺 れないように作品をつくっていた時期でしたね。 「CABIN」というユニット名で発表したはじめ ての作品でもあるので、思い出深いです。

## ――それから15年が経ちますが、この15年 間を振り返ってみていかがですか。

吉岡:大学を卒業するタイミングで東日本大震 災があり、そのあとは内にこもるような状態が続 きました。でも、それで逆に力が溜まったという か、爆発するようにたくさんの絵本や立体作品 をつくることができたんです。振り返ってみると、 数をつくったからこそ、変わったことと変わらな かったことがあるなと思いますね。そして、根本 はまったく変わっていない。その根本を、今回の 「童堂賛歌」展では伝えています。

## ――「童堂賛歌」というタイトルに、お二人の 制作に対する変わらない思いを込めているの だろうと感じます。このタイトルについてもお 聞かせください。

吉岡:このあいだ南大東島に行って鍾乳洞を 見たのですが、とにかくすごかったんです。エ ネルギーが。ああいったものを人間がつくろう と思っても、やっぱり自然には勝てない。そん なとき、一つだけ自然に対抗できるものがある と思っていて、それが「子ども」という存在な んです。地球が生み出すものと同等のエネル ギーがあるものをつくりたいと思い、自分たち

は子どもをテーマにしています。これが、ずっ と変わらないことですね。

阿部:制御できないものに憧れているところが ありますね。火山の噴火や川の流れなど、や めてと言っても止まってはくれない。子どもも似 たところがあって、入っちゃダメ、触っちゃダメ、 喋っちゃダメと言っても、守ってくれる子はほと んどいない。子どもも制御できないんです。自 分たち自身も、そういった無心になるような感覚 で作品をつくりたいという思いがあって。子ども が滑り台を何回も滑り続けるような、目の前に あることだけに集中するような。

吉岡: 「その瞬間」 に思考を集中できるという ことは、とても幸福な世界の見方だと思うんで す。鑑賞者にもそのような、一切を忘れ、目の 前の絵しか見えなくなるような感覚を味わって もらいたいと思い、今回の展覧会もつくってい きました。

阿部: それが「童堂賛歌 | の「童 | で表現した かったことですね。

吉岡:「堂」には「受け入れる」という意味があ ります。思考も、表現も、人間も、ありとあらゆ る事物を等しく受け入れる場にしたいと思い、 この字を入れました。

阿部: 「童堂賛歌」というのは、まさに自分たち の制作態度ですね。

まっている絵の具と、絵として使われている絵 の具は、物質としては同じもの。けれど、自然 に垂れたところと、人工的に描かれたところと いう違いがあります。

吉岡:自分たちの意識を介在させないために、 わざと定規を使うこともあるんです。自分の思 い通りに引かれた線が気に食わないので、定 規を使って線を描きます。

阿部:子どもも、はじめは自然物ですが、だ んだんと人間社会のルールを学び、整えられ て人工物のようになっていく。そういった考え が、《童堂賛歌》にも現れているのかもしれま せん。

――大分のお話もお聞きしたいと思います。 お二人にとって大分は、生活の拠点であり制 作の拠点でもあります。大分と表現はどのよう に結びついていますか。

阿部:大分の要素は、作品に自然と染み込ん でいますね。山を描くときも、大分の丸っこい 山を描きますし。海も別府湾を意識したり、植 物も南洋系のものを描いたり、滲み出ていると 思います。

吉岡: 『ゆうやけにとけていく』 【図3】 でも、よく 行く公園や丘から見た景色など、自分たちの 日常を描いているので、必然的に結びついて いますね。そして、それが自分たちの強みにな どまっていたいなと思うんです。旅も好きなので すが、移住はしません。この巡回展\*をしたこと でなおさらそう思うようになりました。ひとつの 地点から見える世界を深く丁寧に描いていきた いんです。

――そして、今回は千葉で展示を行います が、じつはずいぶん前から千葉との接点があ ったんですよね。千葉市に本社をもつ株式会 社タバタホールディングスさんの手帳のイラス トレーションを、長らくお二人が手がけていま す【図4】。最後に、千葉市美術館の来館者に 向けてメッセージをお願いできますか。



【図4】ザ・キャビンカンパニー《「TABATA」手帳2021 原画》 2021年 株式会社タバタホールディングス蔵

吉岡: ずっと大分のアトリエにこもって作品をつ くりためてきたので、何百キロも離れた千葉の 人たちにそれら全てを見てもらえる日がくるなん て、まったく思っていませんでした。今回、そん な場ができてとても嬉しく思っています。

阿部: 千葉にはいろいろと縁があって。タバタ さんは、自分たちが絵本を出す前からイラスト を使ってくださっていますし、大学時代の教授 の廣瀬剛先生も千葉県出身なんです。

吉岡:廣瀬先生は、自分たちに最初に絵本の 世界を教えてくれた人です。

阿部: 私たちの始まりを支えて下さった方々の 関係したところで、作家人生を振り返る大規模 個展を開催できるというのは、とても感慨深い です。

「話し手:ザ・キャビンカンパニー(阿部健太朗・ 吉岡紗希)/聞き手:主任学芸員 山根佳奈]

\*「ザ・キャビンカンパニー大絵本美術展〈童堂賛歌〉」 は、平塚市美術館(2024/7/6~9/1)、足利市立美術館 (9/14~11/4)、千葉市美術館(11/16~2025/1/13)、大 分県立美術館(2/7~4/13)をまわる全国巡回展です。



【図2】ザ·キャビンカンパニー《童堂賛歌》 2024年 作家蔵 撮影:橋本大

## ――今回、同じタイトルがついた大型作品 《童堂賛歌》【図2】が出品されますが、描かれ ている子どもの姿がリアルで少し驚きました。

吉岡:娘が川べりの石に寝転がっている姿が、 この絵のきっかけになっています。服というもの が最初に身につけている「ルール」だと思い、 それを脱いでもらって。子どもたちが遊んでい る姿をそのまま描きました。背景の山々も実際 の風景とほとんど同じです。

阿部:川から絵の具がだらーっと垂れていると ころも特徴的です。制作するとき、自然物と人 工物についてよく考えるんです。作品全体に山 が連なっていますが、これらは絵の具の塊と言 ってしまえばそうなんですよね。垂れて下に溜

っていると思います。大分に来た方に、「キャビ ンさんの絵がどうしてこんな絵なのかわかった」 と言われることもあります。



【図3】ザ・キャビンカンパニー《『ゆうやけにとけていく』原画》 2023年 作家蔵

阿部:大分市美術館館長の宇都宮壽さんが、 図録のテキストで「大分から宇宙を丸呑みす る」と表現されていました。拠点を転々と変えて 制作する作家もいますが、自分たちは大分にと 「ザ・キャビンカンパニー大絵本美術展 〈童堂賛歌〉」

会 期 2024年11月16日[土]

- 2025年1月13日[月·祝]

会 場 8.7階 企画展示室

休室日 12月2日[月]、16日[月]、12月29日[日] - 1月3日[金]、1月6日[月]

※第1月曜日、年末年始は全館休館

詳細はホームページよりご覧ください





## 「つくりかけラボ16 金川晋吾 知らないうちにはじまっていて、いつ終わるのかわからない」レポート

## 写真で見る自分のこと/他人のこと

写真家の金川晋吾さんをお招きするつくりかけラボ16では、「自分が写った写真」をつかったワークショップを開催しています。スマートフォンが普及し、いまやとても身近な存在となった写真。自分が写った写真を見てみると、どんなことを思ったり、語りたくなったりするでしょうか。

#### アーティストワークショップ

金川さんと6名の参加者が、3回の連続ワークショップを通して、生まれてから現在までの自分が写った写真と向き合います。会場には、参加者の写真と言葉が展示される予定です。



会期中、たくさんの人たちのさまざまな写真が会場に展示されることになるでしょう。写真から感じ取れるもの、写真が自ずと語るもの、そこから見えてくる生活や人生。「知らないうちにはじまっていて、いつ終わるのかわからない」とは、まさしく自分のことだと金川さんは語ります。そういった「わからなさ」も体験する場として、お楽しみいただければ幸いです。



#### オープンワークショップ

お持ちのスマートフォンに保存された写真から、自分が写った写真を3枚選んで印刷することができます。それらをワークシートに並べて、言葉を書き込み、会場に飾るワークショップを行っています。こちらはいつでもどなたでも参加可能。



#### 常設展示室でも金川さんの作品を展示中!

「つくりかけラボ16 金川晋吾 | 知らないうちにはじまっていて、いつ終わるのかわからない」に関連し、5階の常設展示室で「特集 ポートレート」と題した展示を行っています。金川さんは、コレクションに加え、新作のセルフポートレートのシリーズを特別出品。ぜひあわせてご覧ください。



千葉市美術館コレクション選

「特集 ポートレート」

会 期 2024年10月9日[水] - 2025年1月5日[日]

会 場 8.7階 企画展示室

休館日 11月5日[火]、11日[月]-14日[木]、 12月2日[月]、

12月29日[日] - 1月3日[金]

詳細はホームページよりご覧ください



### つくりかけラボ16 金川晋吾|知らないうちに はじまっていて、いつ終わるのかわからない

会 期 2024年10月12日[土]

- 2025年1月26日[日]

会 場 4階 子どもアトリエ 休館日 11 B G D [ w ] 11 D [ B

休館日 11月5日[火]、11日[月]-14日[木]、 12月2日[月]、12月29日[日]-1月3日[金]、

1月6日[月]

詳細はホームページよりご覧ください

## \次回予告*/*

「つくりかけラボ17 井上尚子」

# 記憶の標本室 — Life is Smell project — KUNKUN Laboratory

次回、17回目となるつくりかけラボには、 '匂いと記憶のアーティスト'井上尚子さんをお迎えします。プロジェクトのタイトルは、「記憶の標本室」。地域文化からそこに生きる人々の匂いの記憶を収集し、匂いの記憶図鑑を空間作品として制作したいと、井上さんは言われます。 音楽ユニット Vegetable Record (ベジタブルレコード)のお二人とのコラボレー

ションも楽しみな今回の企画、ここでは、

準備の様子をレポートします。



## 千葉市内をくんくんリサーチ!

今年の5月末から6月にかけて、井上さん、Vegetable Recordの林さんと三上さんの3人で、 美術館の館内とその周辺をリサーチしました。

## |日目:5/22 [水]午後



つくりかけラボ(4階)→常設展示室(5階)→ 企画展示室(8階・7階)→建物の外(I階)→ 職員用駐輪場(地下I階)

つくりかけラボでは、荒井恵子さんのプロジェクト「和紙のフトコロ 墨のダイゴミ」が開催中でした。展示されていた様々な墨や障子の匂いをかいでみながら、一年後のラボに思いを馳せます。展示室は、どんな匂いがしたのでしょうか。建物の外へ周り、正面扉付近と国道沿いの植え込みの匂いをチェック。最後は地下の駐輪場へ向かいました。



争





2日目:6/6 [木] 午前

亥鼻城跡→千葉市立郷土博物館→亥鼻 公園→大和橋(都川)→千葉神社→美術館 さや堂ホール内(I階)→閉架書庫(3階)

井上さん作成のリサーチマップを手に、美術館の近くで一番見晴らしの良い場所である亥鼻城址と郷土博物館からスタート。この日は、梅雨入りが近いことを感じさせる蒸し暑さでした。湿度が匂いとその感じ方に与える影響を実感しつつ、歩きました。大和橋付近で覗いた都川の匂いは、井上さんの想像とは異なっていたようです。千葉神社のお香の匂いを嗅ぎ、さや堂ホールを経て、美術館3階の閉架書庫に行きました。ここには様々な本(図録や過去の資料を含む)があります。

2日間のリサーチの結果は、つくりかけラボの 展示に反映される予定です。お楽しみに! 広く皆さんから記憶に残る匂いのものを 募集する、先行プロジェクト「あなたの記 憶に残る匂いの素材を集めます!」が始ま っています。

好きな匂いだけでなく、苦手な匂いも、思い出してみれば、きっとそこには何らかの記憶が一緒にあるはずです。皆さんのご参加をお待ちしています。







つくりかけラボ17 井上尚子 記憶の 標本室 — Life is Smell project — KUNKUN Laboratory

会 期 2025年2月12日[水]-6月1日[日]

会場 4階子どもアトリエ

休館日 3月3日[月]、4月7日[月]、21日[月]、

5月7日[水]、19日[月] 観覧料 無料

**観見科 無科** 詳細はホームページよりご覧ください





閉架書庫

## 夏休みの活動報告 今年の夏も、美術館を丸ごと楽しむ数々のイベントを開催しました!



#### スペシャルこどもウィーク

「岡本秋暉 百花百鳥に挑んだ江戸の絵師」「江戸絵画縦横無尽!摘水軒コレクション名品展」に関連した「スペシャルこどもウィーク」  $(8/6 \sim 8/12)$ 。6つのイベントを開催し、全身を使って企画展をお楽しみいただきました。

## 木版画多色摺体験/帰ってきた似顔絵アトリエ





美術館ボランティアオリジナル企画である木版画多色摺体験。困ったときやうまく制作するコツは、ボランティアが優しく教えてくれます。企画展でも多く展示された浮世絵のすごさを感じていただけたのではないでしょうか。さらに、以前大好評だった似顔絵アトリエも同時開催! 画伯たちにお気に入りの写真などから似顔絵を描いてもらいました。

#### 美術館ボランティアスタッフによる おしゃべりアート探検



ボランティアとおしゃべりしな がら企画展をめぐるイベント。 ご参加いただいた方には、 記念のバッジとボランティア による折り紙の蝶をプレゼン



## へんしんの術! 絵の中の仲間と会いにいこう





展示作品の中に隠れた動物や植物、魚や虫たちと仲間になれるように、好きないきものに「変身」して展示室へ! 衣装や小物もみんなで制作し、作品をじっくり鑑賞していただきました。無事に仲間たちは見つけられたでしょうか。

## スペシャルスタンプラリ-

目指すはちばしびマスター! 館内を巡ってスタンプを集め てもらいました。





## 千葉交響楽団メンバー による弦楽四重奏

企画展にあわせ、花鳥風月 をテーマにした曲目を演奏し ていただきました。



## びブラリでアサカツ!



今年初めての試みとして、びじゅつラブラリー (びブラリ)で開催したのが、「びブラリであさカツ!」(7/22~8/4)。夏休み、小・中学生が一人でもみんなでも居心地よく過ごせる場所として、朝限定でびブラリを開放しました。宿題をしたり、オリジナルの画材収集帳をつくったり、なぞときや読書に取り組んでみたり。びブラリや千葉市美術館自体のご利用方法を、さらに知っていただくきっかけになったのではないでしょうか。







## 来年の夏のイベントもお楽しみほ



# びじゅつライブラリーおすすめ本紹介コーナー 本をみる、美術をよむ vol.13 ザ・キャビンカンパニーの世界へようこそ!

企画展「ザ・キャビンカンパニー大絵本美術展〈童堂賛歌〉」の開催にあわせ、おすすめの絵本6冊を紹介します! びブラリではザ・キャビンカンパニーによる選書企画も実施。ぜひお立ち寄りください。

※「BIB」は、スロバキア共和国の首都ブラチスラバで2年ごとに開催される、世界最大規模の絵本原画コンクール「ブラチスラバ世界絵本原画展」(略称 BIB = Biennial of Illustrations Bratislava)を表します。当館では、2025年3月にBIB2023を紹介する展覧会を開催予定です。そちらもぜひお楽しみに!



「びじゅつライブラリー(びブラリ)」とは、千葉市美術館 4階にある図書室です。美術にまつわる親しみやすい本を、約4,500 冊配架しています。ぜひふらっと遊びにきてください!

### 『だいおういかのいかたろう』



湖で凍ってしまった、だいおういかの「いかたろう」。 読んでみると、いかたろうたちと一緒に心も体も思わず踊ってしまう絵本です。 心があたたまるだけでは終わらせない、 ザ・キャビンカンパニーのデビュー作。

## 『しんごうきピコリ』



パトカーが教えてくれる、信号機のお話。青は?「すすんでもよし」。では、ピンクは?ころころと表情を変える信号機に、車も人も大あわて。赤緑黄三色の鮮やかな色遣いも楽しい絵本です。

## 『ボンボとヤージュ』



帽子が似合うおとて「ボンボ」と、 しっぽがタンバリンのライオン 「ヤージュ」のもとに、雲から「歌 う地図」が降ってきた!地図に誘われ、二人はどんなお宝を見つけ るのでしょうか? BIB2019出品作。

## 『がっこうにまにあわない』



8時までに「絶対に」学校に着かなければならない「ぼく」には、大きな目的がありました。焦りを表す背景にもご注目! BIB2023出品作で、2025年3月から開催する国内巡回展でも原画を展示予定です。

## 『ゆうやけにとけていく』



沈む夕日はゆっくりとみんなの生活を染め、やがて夜を連れてきます。独特の構図によって表された、一日の声や気持ちが夕焼けに「とろとろとけていく」さまに、心もほぐれる一冊です。

## 『ミライチョコレート』



物語の舞台は3024年ニッポン、自分で食べ物を作ることなどない世界。 少女「マヤ」は大昔の食べ物・チョコレートを求め、自分の力で旅に出ます。 読めばいつもの食べ物も、少し見え方が変わるかもしれません。